

横查情報月報



2014
5月
2014
5月

横浜市衛生研究所

平成26年5月号 目次

【トピックス】

A群溶血性レンサ球菌のT型別について(病原体サーベイランスのまとめ)	1
平成25年度 医動物・食品中異物検査のまとめ	2
平成25年度 食品等の苦情品検査 -食品添加物担当で行った理化学検査-	4

【感染症発生動向調査】

感染症発生動向調査委員会報告 平成26年4月	11
------------------------------	----

【情報提供】

衛生研究所WEBページ情報(平成26年4月分)	15
-------------------------------	----

A群溶血性レンサ球菌のT型別について (病原体サーベイランスのまとめ)

A群溶血性レンサ球菌感染症は、五類感染症(劇症型溶血性レンサ球菌感染症は全数把握疾患、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は小児科定点把握疾患)の対象疾患であり、また病原体サーベイランスの対象疾患になっています。これら疾患の起因菌は、*Streptococcus pyogenes* であり、劇症型は手足の筋肉等の軟部組織に壊死性の炎症を伴う重篤な症状を呈します。咽頭炎は主に小児に多く見られ、その他に扁桃炎や猩紅熱、続発症として急性糸球体腎炎、リウマチ熱等を発症することがあります。

当所では、病原体サーベイランス事業として小児科定点から送付された咽頭炎症状患者の咽頭ぬぐい液からA群溶血性レンサ球菌を分離培養し、同定された株についてその疫学的指標であるT型別*をおこなっています。

今回は2013年1月から12月までの1年間に分離されたA群溶血性レンサ球菌のT型別* 結果を報告します。2013年1月から12月に受付けた52検体から分離された株は計42株(80.8%)で、T4型、T6型、T2型の順で多く見られました。2010年から4年間の結果を比較するとT4型、T6型が増加し、T1型が減少傾向にあります(表)。

これらの結果は、衛生微生物技術協議会溶血レンサ球菌レファレンスセンターに報告しており、全国のデータがまとめられて国立感染症研究所のホームページで報告されます¹⁾。

表 病原体サーベイランス検体から分離されたA群溶血性レンサ球菌のT型別結果(2010年～2013年)

菌型	T1	T2	T3	T4	T6	T12	T25	T28	TB3264	型別不能	計
2013年1～12月	2	5		11	8	4	4	3	4	1	42
2012年1～12月	11	2		6	11	12	1	4	10		57
2011年1～12月	8		4			7	2	7	19	2	49
2010年1～12月	26			3	1	11	3	15	3	4	66

* T型別とは、A群溶血性レンサ球菌の菌体表層に存在するT蛋白の血清型別のことで、疫学調査の手段として広く用いられています。

¹⁾ 国立感染症研究所 第34回衛生微生物技術協議会溶血レンサ球菌レファレンスセンター会議資料
<http://www.nih.go.jp/niid/ja/allarticles/manual/297-labo-manual/3768-reference-report34.html>

【 検査研究課 細菌担当 】

平成25年度 医動物・食品中異物検査のまとめ

医動物担当では、人の健康を害したり、人に不快感を与える昆虫、ダニ、寄生虫等の試験・調査・研究を行っています。

その中の一つとして、市民、各区福祉保健センター、各市場検査所、事業者等の依頼を受けて、昆虫類を中心に食品へ混入した異物の検査を行っています。平成25年度の食品中異物検査実績は、9件でした。

依頼された9件はすべて昆虫類でした。その内訳は、チョウ目5件、ゴキブリ目2件、コウチュウ目1件、ハエ目1件でした。今回は、同定結果の詳細を報告します。

相談内容・発生状況等	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
購入したサンドイッチに幼虫が混入		オオタバコガの幼虫 (チョウ目)	幼虫は葉のみでなく、果実や種子に潜り込み、食害することもある。幼虫の食相は広く、イネ科、アオイ科、アブラナ科、ウリ科、キク科、ナス科等多種の植物を食害する。
しその実には幼虫が付着		ヤガ科の一種 (チョウ目)	日本最大の科で多くの亜科に分かれている。幼虫の食性は多様で、野菜類のほか、各種雑草や樹木の葉等を食害する。
スープに幼虫が混入していた		チョウ目の一種 (チョウ目)	ガ類成虫は一般に夜行性で、灯火に集まる。主に幼虫が食品を加害し、その生活様式は多様で、一般的には植物や乾燥動植物等を食害する。
ミックスフルーツに幼虫が混入		チョウ目の一種 (チョウ目)	同上

相談内容・発生状況等	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
ミックスフルーツ に幼虫が混入	 幼虫、黄白色、約12mm	チョウ目の一種 (チョウ目)	前ページと同様
あんぱんに虫体 の一部が混入	 成虫、茶褐色、翅長約30mm	ゴキブリ科の一種 (ゴキブリ目)	屋内で見られるゴキブリは雑食性で、多くの植物性、動物性の食品を食害する。成虫幼虫ともに日中は屋内の潜伏場所で過ごし、夜になると餌と水を求めて活動する。
しゅうまいの箱内 に虫が混入	 成虫、茶褐色、約13mm	チャバネゴキブリの 雌 (ゴキブリ目)	代表的な屋内ゴキブリで、ビル、レストラン、病院、など暖房設備が完備されたコンクリート住宅などに特に多く見られる。日本では全国各地に分布する。
中国茶に幼虫が 混入	 幼虫、乳白色、約2mm	タバコシバンムシの 幼虫 (コウチュウ目)	食品を加害するのは幼虫のみで、その食性は広く、被害食品の種類は100種をこえる。乾燥植物質、穀類の粉、香辛料、パン、菓子類など、多くの食品を加害する代表的な食品害虫である。
しゅうまいに脚が 付着	 成虫、黒色、約35mm	大型ハエ類の脚 (ハエ目)	ハエ類の幼虫は、食物残渣、動物糞、ゴミ処理場のゴミなど、あらゆる動物質や植物質の有機物から発生する。屋内外で発生するが、屋外発生種であっても屋内侵入性が高い種もいる。

【 検査研究課 医動物担当 】

平成25年度 食品等の苦情品検査




-食品添加物担当で行った理化学検査-

平成25年度に、福祉保健センター等に届けられた食品等に関する苦情品の中で、原因究明のために食品添加物担当へ搬入された検体は36件57検体でした。苦情の内容は様々ですが、異物混入が多く見られました。理化学検査を中心に行ったうち主な検体の検査結果は次のとおりです。

品名	事故・苦情理由	試験項目	試験結果
揚げ物中の異物 	購入した弁当中の揚げ物からビニール様異物がでてきた。	外観 赤外分光分析 結果	大きさ5.0cm×3.7cm、重さ53mg。透明で柔らかい不定形な薄膜片。辺縁には熱で縮れて白く硬化した箇所が認められた。 ポリエチレン樹脂と同様な赤外吸収スペクトルを認めた。 ポリエチレン樹脂の薄膜片と推定された。
毛髪状の異物(給食) 	給食のおかず(きゅうりと人参とわかめの和えたもの)から毛髪状の異物が発見された。	外観 電子顕微鏡 マイクロアナライザー 結果	①長さ40mm、太さ0.08～0.09mm、こげ茶色、②長さ32mm、太さ0.07～0.09mm、薄茶色、③長さ11mm、太さ0.09mm、薄茶色の繊維状の物質。 横行波状の小皮紋理(キューティクル)が認められた。また、断面には髄が認められなかった。 炭素、窒素、酸素、硫黄の元素を認めた。 毛と推定された。
挽肉中の異物 	購入した合挽肉を開封したところ、毛の塊のようなものを発見した。	外観 鏡検 電子顕微鏡 マイクロアナライザー 結果	長さ1～3mm程度の非常に細い黒色の毛様異物を数十本認めた。 いずれも異物の両端は切断されたような形状をしていた。なお、毛根は認められなかった。 異物の太さは20～40μm程度であり、横行波状の小皮紋理(キューティクル)を認めた。 炭素、酸素、窒素、硫黄の元素を認めた。 毛と推定された。
和え物中の異物 	人参といんげんの和え物を食べたところ、口内から白い石様の異物を発見した。	外観 鏡検 電子顕微鏡 マイクロアナライザー GC/MS分析 結果	大きさ1.2mm×1mm、0.8mm×0.5mm、0.6mm×0.5mm、重さの合計約1mg。白く硬い不定形な固まり3個。 表面には光沢があり、結晶のようなひびが多数認められた。 細かい鉱石のようなものが散りばめられた構造が認められた。 炭素、酸素、フッ素、アルミニウム、ケイ素等の元素を認めた。 熱分解を行ったところ、ライブラリ検索によりメタクリル酸2-ヒドロキシエチルやメタクリル酸と推定されるピークを認めた。 メタクリル樹脂と無機物(フッ素、アルミニウム、ケイ素等)との混合物と推定された。

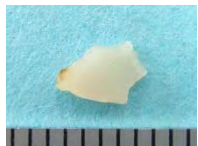
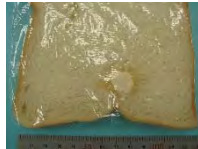
品名	事故・苦情理由	試験項目	試験結果
おむすび中の異物 	購入したおむすびを食べたところ、口内からガラス玉のような異物が出てきた。	外観 鏡検 電子顕微鏡 マイクロアナライザー 赤外分光分析 ヨウ素デンプン反応 溶解性 結果	大きさ3.3×2.8mm、重さ21mg、半透明で硬い不定形の固まり。水に浸してもふやけたり、溶けたりせず、形状は変化しなかった。 全体的に光沢を有し、凹凸のある表面であった。拡大した表面は比較的滑らかであったが、一部ざらついた箇所も認められた。 酸素、ケイ素および微量のアルミニウムを認められた。 二酸化ケイ素の赤外吸収スペクトルを認められた。 陰性 塩酸を滴下しても発泡を認めなかった。 二酸化ケイ素を主成分とする無機物(ガラス、シリカゲル、鉱物)と推定された。
弁当中の異物 	購入した鶏五目炊き込み弁当を食べていたところ、異物が出てきた。	外観 鏡検 電子顕微鏡 マイクロアナライザー 赤外分光分析 結果	大きさ14×3mm、重さ0.03g、2か所突起物がある淡黄色の固い物質。片面は平らかだが反対側は2か所溝のような窪みがあり、片方の端は三角に尖っていた。 窪みがある面は、表面に小さな穴が多数空いていた。反対の面は穴はないが細かい凹凸があった。 窪みがある面に蜂の巣のような構造が認められた。 酸素、炭素、カルシウム、窒素、リン等の元素を認められた。 灰化前、灰化後共に鶏の骨と類似した赤外吸収スペクトルを認められた。 骨の破片と推定された。
肉の中の異物 	購入した肉のパックの中からちぎれた紙のような異物が出てきた。	外観 鏡検 リグニン反応 赤外分光分析 結果	大きさ2.2cm×1.9cm、重さ約0.3g。赤茶色で柔らかく湿り気のある不定形な固まり。内部を広げると毛羽立ちが見られ、さらに広げると10枚程度の薄片に分かれた。薄片を透かして見たところ線状の模様が見られた。また、水で洗浄すると色が薄くなり薄黄色となった。 細い繊維が集まった構造が認められた。 陽性 セルロースに類似した赤外吸収スペクトルを認められた。 薄い紙の集まりと推定された。
ちらし弁当	購入したちらし弁当を食べたところ、30分後にじんましんが発症した。	ヒスタミン	弁当の原材料(サーモン、まぐろすき身など)5検体についてHPLCで定量したところ、すべて不検出であった。(検出限界:10mg/100g)

品名	事故・苦情理由	試験項目	試験結果
ロールケーキ 	ロールケーキ断面に黒色のカビ様物質が発生していた。	外観 鏡検 電子顕微鏡 マイクロアナライザー 結果	ロールケーキのクリーム部分に直径1cm弱の黒い変色部分がみられた。また、トレイにも直径5mm程度の黒い変色部分がみられた。 変色部分を拡大すると、非常に小さな黒い破片状のものが多数みられた。 クリーム部分を可能な限り除去・洗浄したものを電子顕微鏡で観察したが、菌糸状のものは認められなかった。 炭素、酸素の元素を認めた。窒素の元素は認められなかった。 有機物が黒く変色したものと推定された。
にぎり寿司中の異物 	店で寿司を食べていたところ、平たい透明な異物が出てきた。	外観 鏡検 電子顕微鏡 マイクロアナライザー 赤外分光分析 溶解性 燃焼性 結果	大きさ約10×7mmの異物が、セロハンテープと紙で封入された状態で搬入された。セロハンテープをはがし異物を取り出したところ、2個の破片になった。その重さの合計は11mgであった。異物は、対照品の鯛の鱗と同様に、比較的硬い白色半透明の薄片で、弾力性を有していた。 魚の鱗に特徴的な隆起線を認めた。 表面を拡大すると、対照品と同様に、平行にはしるノコギリ歯状の部分を認めた。 炭素、窒素、酸素、リン、カルシウムの元素を認めた。対照品も同様の元素を認めた。 灰化前、灰化後共に対照品を灰化したものと同様な赤外吸収スペクトルを認めた。 塩酸を滴下したところ、発泡し溶解した。 加熱したところ、タンパク質を焦がしたような臭いを発し、炭化した。 魚の鱗と推定された。
スパゲティ中の異物(給食) 	給食のスパゲティに、薄い板状の異物が混入していたのを発見した。	外観 鏡検 電子顕微鏡 マイクロアナライザー 燃焼性 赤外分光分析 結果	大きさ8mm×5mm、重さ28.1mg、白い板状の硬い物質。 表面に微細な凹凸が観察された。 表面に多数の空洞部分が観察された。 炭素、窒素、酸素、カルシウム、リン等の元素を認めた。 加熱すると黒色に変化し、タンパク質の焦げたような臭いを発した。 灰化前、灰化後共に骨と類似した赤外吸収スペクトルを認めた。 骨の欠片と推定された。

品名	事故・苦情理由	試験項目	試験結果
鶏肉中の異物 	鶏肉料理から魚の骨のような異物が出てきた。	外観 鏡検 電子顕微鏡 マイクロアナライザー 赤外分光分析 燃焼性 リグニン反応 結果	長さ17.5mm、太さ約1mm、重さ13mg、淡黄色の棒状物質。片端には燃やした跡が認められた。 表面を拡大すると、全体的に一定方向に走るスジを認めた。 断面に多数の空洞部分を認めた。 断面に炭素、窒素、酸素、リン、カルシウムの元素を認めた。 灰化前、灰化後共に骨と類似した赤外吸収スペクトルを認めた。 加熱すると黒色に変化し、タンパク質の焦げたような臭いを発した。 陰性 骨と推定された。
じゃがいものフライ	購入したじゃがいものフライを食べたところ、口の中がしびれて、30分以内に腹痛、嘔吐の症状が出た。	α -ソラニン α -チャコニン 備考	皮(衣付):890 μ g/g、実:960 μ g/g 皮(衣付):940 μ g/g、実:540 μ g/g 通常のじゃがいもには100g中数mg～数10mgのソラニン類が含まれているといわれている。なお、中毒量は200～400mgといわれている。 (衛生試験法・注解2010より転載)
ポテトニョッキ中の異物 	調理しようと鍋に開けたところ、ポテトニョッキに虫のようなものが付着していた。	外観 鏡検 電子顕微鏡 マイクロアナライザー 赤外分光分析 ヨウ素テンピン反応 燃焼性 結果	大きさ9mm×3mm、重さ14mg、褐色の薄片様異物。表面には白色結晶が多数付着しており、水で洗浄すると結晶は溶解し、全体的に膨張して柔らかくなった。 異物表面は比較的滑らかだが、断面は微細な凹凸が多数認められた。 炭素、酸素、窒素の元素を認めた。 小麦粉と同様な赤外吸収スペクトルを認めた。 陽性 加熱したところ、炭水化物を燃やした臭いを発した。 小麦粉等の炭水化物の固まりと推定された。
豚肉のフライ中の異物 	配食弁当中のフライに異物が混入していた。	外観 鏡検 電子顕微鏡 マイクロアナライザー 赤外分光分析 燃焼性 結果	大きさ8mm×2mm、重さ148mg、白色(黄褐色の部分もあり)の板状の硬い物質。 表面に微細な凹凸が観察された。 表面に多数の空洞部分が観察された。 炭素、窒素、酸素、カルシウム、リン等の元素を認めた。 灰化前、灰化後共に骨と類似した赤外吸収スペクトルを認めた。 加熱すると黒色に変化し、タンパク質の焦げたような臭いを発した。 骨の欠片と推定された。

品名	事故・苦情理由	試験項目	試験結果
しょうゆ中の異物 	合成樹脂製の小袋に入っているしょうゆ(賞味期限が過ぎている)の中から2cmぐらいの塊が出てきた。	外観 鏡検 電子顕微鏡 マイクロアナライザー 赤外分光分析 結果	大きさ約3cm×1.5cm、重さ0.2g、緑がかった茶褐色の柔らかい物質。一部かびと思われる白いものが付着していた。 表面は細かい凹凸があり湿っていた。乾くと縮んで固くなり、水分を与えると元に戻った。 表面は全面的に多数の繊維状の物質で覆われていた。 表面からは炭素、酸素、窒素等、断面からは炭素、酸素等の元素が検出された。 市販の麴(コウジカビ)と類似した赤外吸収スペクトルを認めた。 窒素を含む有機物の固まりと推定された。
つみれ中の異物 	購入したつみれを鍋物にして食べたところ、ガラス様の異物が出てきた。	外観 鏡検 マイクロアナライザー 赤外分光分析 結果	大きさ2.2×3.3×1.5mm、重さ10mg。無色透明な不定形のガラス様異物。 鋭くかけた角やスジ状の断面を認めた。また、全体的に光沢があり、顕微鏡の光を当てると強く反射した。 酸素、ケイ素、ナトリウム、カルシウム、マグネシウムの元素を認めた。 ガラスと同様な赤外吸収スペクトルを認めた。 ガラスの破片と推定された。
たらこ中の異物 	購入したたらこのパック中にピンク色の異物が入っていた。	外観 鏡検 ニンヒドリン反応 赤外分光分析 結果	大きさ18×15mm、重さ0.9g、薄橙色のしわが寄った丸い有機物。表面は滑らかで弾力があり、表側は中心部分がへこんでおり裏側は膨らんでいた。 異物を切断すると、断面は厚さ1~2mmの分厚い皮状のものが2枚重なり、接着した状態であった。 陽性 たらこの皮と同様な赤外吸収スペクトルを認めた。 たらこの皮が肥厚化したものと推定された。
すまし汁中の異物(給食) 	給食のすまし汁を分配していたところ、鍋の底に青色の異物が沈んでいた。	外観 鏡検 赤外分光分析 結果	大きさ8mm×4mm、重さ3.7mg、若干色あせた青色で(茶色の部分あり)、弾力のある薄いプラスチック様固形物。水に浸すと沈んだ。 異物の片面側は凹凸があり、印字された文字(アルファベット)が観察された。 ポリ塩化ビニルと類似したスペクトルを認めた。また、参考品(防蝕テープ破片)と類似したスペクトルを認めた。 ポリ塩化ビニルを主成分とするプラスチック片と推定された。

品名	事故・苦情理由	試験項目	試験結果
マカロニのクリーム煮中の異物(給食) 	給食のマカロニのクリーム煮の中に小さな金属片が混入していた。	外観 鏡検 磁性 マイクロアナライザー 結果	長さ8.2mm、幅0.3～0.6mm、重さ1.7mg。銀色で細長い幅の不均一な金属片。 片面は平らで細かいスジ状のキズを多数認めた。反対面には凹凸を認めた。 磁性を認めた。 鉄、クロム、ニッケルの元素を認めた。 ステンレス製の金属片と推定された。
肉まん中の異物 	自宅で肉まんを食べていたところ、口内に違和感を感じ、異物を発見した。	外観 鏡検 電子顕微鏡 マイクロアナライザー 磁性 結果	大きさ4.5mm×2.8mm、重さ0.05g、黒色の硬い石様異物。水に浸してもふやけたり、溶けたりせず、形状は変化しなかった。 全体的に細かい凹凸のある表面で、所々白くなっていた。 酸素およびケイ素と、微量のアルミニウム、鉄等の元素を認めた。 石に類似した赤外吸収スペクトルを認めた。 磁性を認めなかった。 石と推定された。
弁当中の異物 	購入した弁当に針金様異物が入っていた。	外観 鏡検 マイクロアナライザー 結果	長さ5cm、重さ0.07g、細かく波打った針金状の異物。 針金の太さは0.5mm、波の一山の幅は約4mm、端は斜めに切断されていた。 鉄、クロム、ニッケルの元素を認めた。 ステンレスの針金と推定された。なお、参考品の製造所で使用されていた調理器具の網部分から切り取った針金と形状、成分共に類似していた。
雑煮中の異物 	自宅で鯛の頭と一緒に煮込んだ雑煮の中に、ビニール片の様な異物を発見した。	外観 鏡検 電子顕微鏡 マイクロアナライザー 赤外分光分析 結果	大きさ2mm×3mm～10mm×13mm程度の白色半透明な薄片が丸まった状態。全部で9個あり、重さの合計は約0.1g。乾燥した状態では硬いが、水に浸すとやや柔らかくなり、広げると丸みを帯びた形となった。 魚の鱗に特徴的な隆起線を認めた。 表面を拡大すると、平行に走るノコギリ歯状の部分を認めた。 酸素、カルシウム、炭素、リン等の元素を認めた。 当所で用意した鯛の鱗と同様な赤外吸収スペクトルを認めた。 魚の鱗と推定された。
和菓子	和菓子(まんじゅう)を食べたところ、餡部分に異味を感じた。	官能検査 2,4-ジクロロフェノール 備考	5名で試食したところ、異味・異臭を認めなかった。 不検出(検出限界:1ppb) 当該品は、2,4-ジクロロフェノールが原因による異味苦情のために製造メーカーが自主回収を行っていた。

品名	事故・苦情理由	試験項目	試験結果
白色異物 	スーパーで購入した複数の食品を食べていたところ、口内に違和感を感じ、白い異物が出てきた。	外観 鏡検 マイクロアナライザー 赤外分光分析 結果	直径約6×5mm、厚さ約1mm、重さ14mg、一部茶色に変色した淡黄色の固まり。 片面は光沢があり滑らかでわずかに凸状に丸みをおびていた。反対側はざらついておりわずかに凹んでいた。 酸素、炭素、タングステン、ケイ素、フッ素、アルミニウムの元素を認めた。 レジン(樹脂)に類似した赤外吸収スペクトルを認めた。 タングステン、ケイ素、フッ素、アルミニウムを含むプラスチック樹脂と推定された。
白色粒状異物 	購入した食パンを4枚食べて、翌日に残りを食べようとしたところ、パンの間に異物を発見した。	外観 HPLC分析 赤外分光分析 結果	大きさ約1cm×1cm、重さ約0.2g。白色～淡黄色の粒状異物が溶けたような状態で食パンの表面に付着していた。 アスコルビン酸(ビタミンC)を110mg/g検出した。 参考品(苦情者が服用しているビタミン剤と同製品)と類似した赤外吸収スペクトルを認めた。 アスコルビン酸(ビタミンC)を含む物質と推定された。
ビスケット	防災用のビスケット(保存缶)を食べたところ、数名が酸っぱいと感じた。	官能検査 過酸化価 備考	5名で実施したところ、油の酸化臭を認めた。 350 meq/kg 当該品の賞味期限は2017.3.1であった。本件により製造メーカーは、当該ロットの自主回収をすることとなった。

【 検査研究課 食品添加物担当 】

感染症発生動向調査委員会報告 4月

《今月のトピックス》

- 麻しんの報告が続いています。
- 伝染性紅斑の報告が増加しています。

全数把握疾患 4月期に報告された全数把握疾患

腸管出血性大腸菌感染症	2件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	2件
マラリア	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	1件
アメーバ赤痢	3件	梅毒	3件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1件	麻しん	2件

＜腸管出血性大腸菌感染症＞2件(いずれもO157 VT1VT2)の報告がありました。1件は広域に発生している同じ畜産会社の馬刺しの喫食が原因でした。もう1件は感染経路等調査中です。本症は例年夏季にむけて感染者数のピークを迎えるため、今後の注意が必要です。特に抵抗力の弱い乳幼児や高齢者で重症化することがあります。通常、菌は家畜の腸内に存在し、新鮮な肉を購入しても表面に菌が付着している可能性があり、生肉を切った包丁やまな板の洗浄・消毒や、焼肉の生肉を取る箸と食べる箸を区別する等の予防対策が重要です。また菌は熱に弱いので、肉は十分に加熱(中心部まで75℃で1分以上加熱)し、生肉や加熱が不十分な肉を食べないことが大切です。

＜マラリア＞1件の卵形マラリアの報告があり、渡航先(ガーナ)での感染が推定されています。マラリアは、熱帯熱、三日熱、卵形、四日熱の4種類に分かれます。マラリアに免疫のないヒトが初感染した場合、発熱はほぼ必発で、原虫侵入後の潜伏期は熱帯熱マラリアで12日前後、四日熱マラリアは30日前後、三日熱マラリアと卵形マラリアでは14日前後です。

＜アメーバ赤痢＞腸管アメーバ症2件と腸管外アメーバ症(肝膿瘍)1件の報告がありました。腸管アメーバ症の1件は国内での同性間性的接触による感染、他の2件は国内での感染が推定されていますが感染経路等不明でした。

＜劇症型溶血性レンサ球菌感染症＞70歳代男性の報告が1件あり、血清型はG群でした。創傷感染が推定されています。

＜後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)＞無症状病原体保有者2件(無症候性キャリア1件とその他(急性HIV感染症)1件)の報告がありました。無症候性キャリアは国内での同性間性的接触による感染、その他は国内での感染が推定されていますが、感染経路等不明でした。なお、HIV感染症の初期症状である発熱、頭痛、咽頭痛などを呈する急性HIV感染症は、感染症法による届出のうち、1)無症候性キャリア、2)AIDS、3)その他、のうち3)その他、に該当します。

＜侵襲性肺炎球菌感染症＞70歳代の報告が1件(血清型7型)ありました。ワクチン接種歴は2回有りました。血清型のサブタイプは現在国立感染症研究所で精査中です。

＜梅毒＞3件の報告があり、1件は早期顕症Ⅱ期(咽頭乳白斑)で、国内での異性間性的接触(経口)による感染が推定されており、残る2件は早期顕症Ⅰ期(初期硬結、鼠径部リンパ節腫脹)で、どちらも国内での異性間性的接触(1件は経口、もう1件は性交)による感染が推定されています。

＜麻しん＞2件の報告がありました。1件は幼児で予防接種歴無し。PCR陽性で、遺伝子型はB3です。もう1件は50歳代男性で予防接種歴不明で臨床診断例です。現在PCR検査等精査中です。全国的に麻しんの報告が増加しており、既に今年は昨年を報告数を超えています。現在フィリピンなどでは麻しんが流行しており、海外からの輸入例が、特に首都圏で増えています。海外渡航歴や海外の人との接触が考えられる患者の診察では留意が必要です。さらに、国内発生の事例では、本人の気づかないところで海外からの輸入例と接触し、感染したことが疑われる事例が報告されているので注意が必要です。また、職場内での感染も報告されています(参考:[麻しん臨時情報](#))。麻しんの予防には2回の予防接種が必要です。定期予防接種(1回目:1歳以上2歳未満、2回目:5歳から7歳未満で小学校就学前1年間)で、麻しん・風しん混合ワクチン(MRワクチン)を確実に接種しましょう。麻しんの検査診断にあたっては国立感染症研究所の「[麻しん検査診断アルゴリズム](#)」をご参照ください。また、診断の確定には適切な時期のPCR検査が有用です。検査については最寄りの福祉保健センターにご連絡ください。

定点把握疾患

平成26年3月24日から平成26年4月20日まで
(平成26年第13週から平成26年第16週まで。ただし、性感染症
については平成26年3月分)の横浜市感染症発生動向評価を、
標記委員会において行いましたのでお知らせします。

平成26年 週一月日対照表

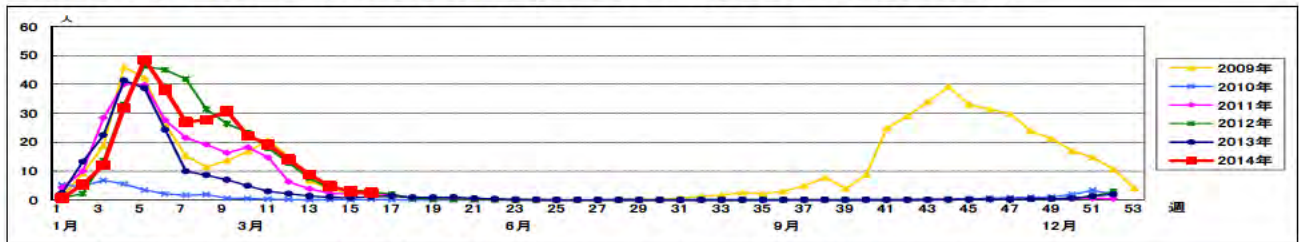
第13週	3月24日～3月30日
第14週	3月31日～4月6日
第15週	4月7日～4月13日
第16週	4月14日～4月20日

1 患者定点からの情報

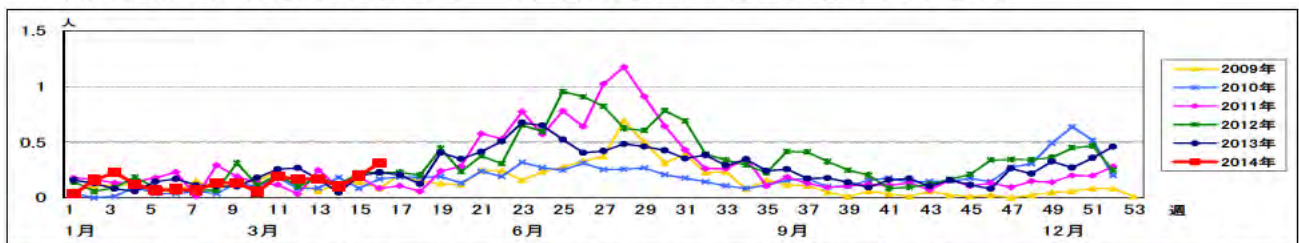
市内の患者定点は、小児科定点:92か所、内科定点:60か

所、眼科定点:19か所、性感染症定点:27か所、基幹(病院)定点:4か所の計202か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の11感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計152定点から報告されます。

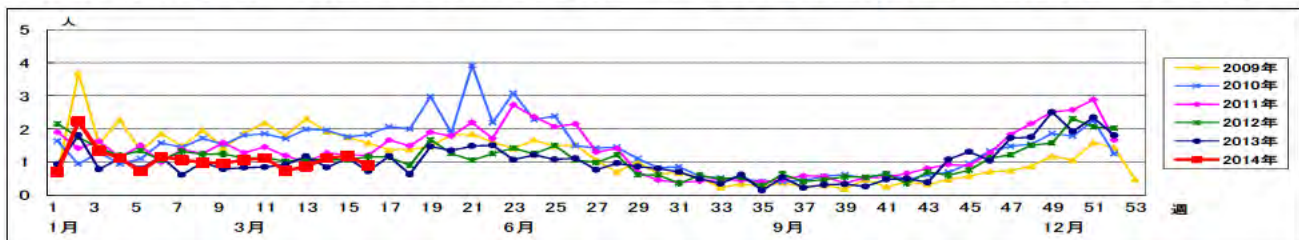
<インフルエンザ>市全体の定点あたりの患者報告数は引き続き減少傾向で、第16週は2.46です。ただ、第16週にも小学校での学級閉鎖が1件報告されており、もう少し注意が必要です。



<咽頭結膜熱>第16週は市全体で定点あたり0.31と、やや報告が増加しています。

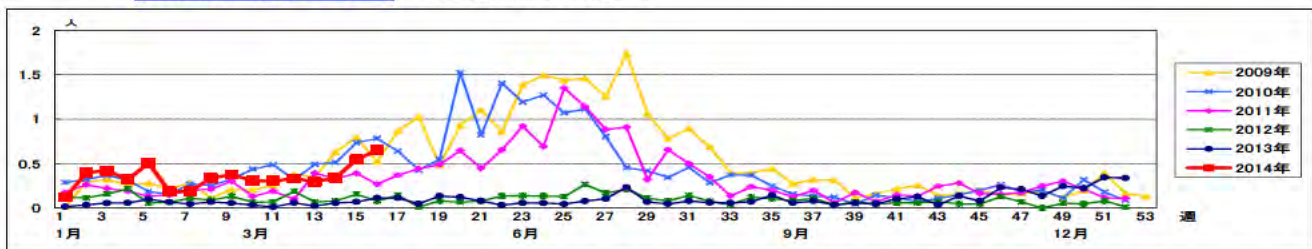


<水痘>第16週は中区で定点あたり5.33と注意報レベルですが、市全体では0.90と落ち着いています。



<伝染性紅斑>第16週は市全体で定点あたり0.65と、報告数が多くなっています。伝染性紅斑は典型的なヒトパルボウイルスB19(以下B19)感染症の臨床像です。B19感染症で注意すべきものの一つとして、妊婦感染による胎児の異常(胎児水腫)および流産があります。

◆伝染性紅斑について(国立感染症研究所)



<性感染症>3月は、性器クラミジア感染症は男性が23件、女性が7件でした。性器ヘルペス感染症は男性が6件、女性が6件です。尖圭コンジローマは男性9件、女性が3件でした。淋菌感染症は男性が10件、女性が1件でした。

<基幹定点週報>マイコプラズマ肺炎は第13週0.50、第14週0.33、第15週0.00、第16週0.00と落ち着いています。感染性胃腸炎(ロタウイルス)は第13週0.25、第14週0.00、第15週0.33、第16週1.50と報告が多くなっています。細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

<基幹定点月報>3月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症1件報告がありました。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

【 感染症・疫学情報課 】

2 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計16か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は9か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

<ウイルス検査>

4月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点34件(鼻咽頭ぬぐい液32件、ふん便2件)、内科定点3件(鼻咽頭ぬぐい液)、眼科定点1件(眼脂)、基幹定点19件(鼻咽頭ぬぐい液9件、髄液3件、ふん便2件、血漿2件、喀痰1件、血清1件、尿1件)でした。患者の臨床症状別内訳は、小児科定点は気管支炎16人、インフルエンザ9人、咽頭炎4人、感染性胃腸炎3人、発疹2人、内科定点はインフルエンザ3人、眼科定点は流行性角結膜炎1人、基幹定点は肺炎3人、インフルエンザ2人、無菌性髄膜炎2人、脳炎1人、先天性風疹症候群1人、不明熱1人でした。

5月9日現在、小児科定点のインフルエンザ患者8人からインフルエンザウイルスAH3型(1人)とB型山形系統(7人)、気管支炎患者2人からアデノウイルス、内科定点のインフルエンザ患者3人からインフルエンザウイルスB型山形系統、基幹定点のインフルエンザ患者1人からインフルエンザウイルスB型山形系統が分離されています。

これ以外に遺伝子検査では、小児科定点の気管支炎患者14人からヒトメタニューモウイルス(6人)、ライノウイルス(6人)、RSウイルス(1人)とヒトコロナウイルス(1人)、インフルエンザ患者1人からインフルエンザウイルスB型山形系統、咽頭炎患者1人からヒトボガウイルス、発疹患者1人からパルボウイルスB19、胃腸炎患者1人からアデノウイルス、基幹定点の肺炎患者3人からヒトボガウイルス(2人)とライノウイルス(1人)の遺伝子が検出されています。

その他の検体は引き続き検査中です。

【 検査研究課 ウイルス担当 】

<細菌検査>

4月の感染性胃腸炎関係の受付は、基幹定点から4件、その他が7件で腸管出血性大腸菌2件(O157:H7,VT1&2)、NAGビブリオ1件が検出されました。

その他の感染症は小児科から4件、基幹定点から2件、その他が12件でした。A群溶血性レンサ球菌T1は劇症型レンサ球菌でした。

(次ページに表)

表 感染症発生動向調査における病原体検査(4月)

感染性胃腸炎							
検査年月		4月			2014年1月～4月		
定点の区別		小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
件数		0	4	7	0	42	17
菌種名							
赤痢菌							1
腸管出血性大腸菌				2			2
サルモネラ						24	
NAGビブリオ				1			1
不検出		0	4	4	0	18	13
その他の感染症							
検査年月		4月			2014年1月～4月		
定点の区別		小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
件数		4	5	12	16	14	70
菌種名							
A群溶血性レンサ球菌		T1		1			2
		T6			5		
		T12	2		5		
		T B3264	1		1		
		型別不能			2		
B群溶血性レンサ球菌				1			6
G群溶血性レンサ球菌				2			3
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌			2			6	
<i>Legionella pneumophila</i>				1			3
インフルエンザ菌							2
肺炎球菌				3	1		47
百日咳						1	
その他			2			6	1
不検出		1	1	4	2	1	6

*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 検査研究課 細菌担当 】

衛生研究所WEBページ情報

(アクセス件数・順位 平成26年3月分、電子メールによる問い合わせ・追加・更新記事 平成26年4月分)

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は、平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。

今回は、平成26年3月のアクセス件数、アクセス順位及び平成26年4月の電子メールによる問い合わせ、WEB追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については総務局IT活用推進課から提供されたデータを基に集計しました。

1 利用状況

(1) アクセス件数 (平成26年3月)

平成26年3月の総アクセス数は、135,274件でした。主な内訳は、感染症情報センター72.5%、食品衛生5.6%、保健情報8.1%、検査情報月報4.4%、生活環境衛生2.0%、薬事0.9%でした。

(2) アクセス順位 (平成26年3月)

3月のアクセス順位(表1)

表1 平成26年3月 アクセス順位

は、第1位が「クロストリジウム-ディフィシル感染症について」、第2位が「衛生研究所トップページ」、第3位が「感染症発生状況」でした。

順位	タイトル	件数
1	クロストリジウム-ディフィシル感染症について	4,609
2	衛生研究所トップページ	3,786
3	感染症発生状況	3,278
4	横浜市インフルエンザ2013/2014シーズンの流行情報	3,246
5	B群レンサ球菌(GBS)感染症について	3,088
6	ぎょう虫(蟯虫)症について	2,570
7	EBウイルスと伝染性単核症について	2,519
8	サイトメガロウイルス感染症について	2,459
9	横浜市感染症情報センター	2,212
10	臨時情報	2,171

データ提供:総務局IT活用推進課

3月の総アクセス数は、前月に比べ23%ほど減少しました。今月の1位は、「クロストリジウム-ディフィシル感染症について」でした。クロストリジウム-ディフィシル

感染症は、老人や免疫機能が低下している人たちに多く発生します。予防には手洗いの徹底が大切です。2位は「衛生研究所トップページ」で、年間を通してアクセス件数の多い項目にあげられます。3位は「感染症発生状況」でした。6位に「ぎょう虫(蟯虫)症について」が入っていますが、学校の新学期を控えての傾向であると考えます。

「クロストリジウム-ディフィシル感染症について」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/clostridium1.html>

「衛生研究所トップページ」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>

「感染症発生状況」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/surveillance/>

(3) 電子メールによる問い合わせ（平成26年4月）

平成26年4月の問い合わせは、3件でした(表2)。

表2 平成26年4月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数	回答部署
写真画像の転載について(マダニの写真画像)	1	感染症・疫学情報課(検査研究課確認済)
ホームページ掲載の図の出典について	1	感染症・疫学情報課
食品検査について(ファミレスでの食品)	1	感染症・疫学情報課(検査研究課確認済)

2 追加・更新記事（平成26年4月）

平成26年4月に追加・更新した主な記事は、11件でした(表3)。

表3 平成26年4月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
4月 1日	感染症に気をつけよう(4月号)	掲載
4月 1日	ラトビアのこどもの定期予防接種について	掲載
4月 3日	横浜市インフルエンザ流行情報19号	掲載
4月10日	ロシアのこどもの定期予防接種について	掲載
4月11日	介護保険第2号被保険者分析結果	掲載
4月21日	モルドバのこどもの定期予防接種について	掲載
4月23日	カザフスタンのこどもの定期予防接種について	掲載
4月23日	◆パンフレット◆ 水痘(みずぼうそう)はワクチンで予防!	掲載
4月24日	麻しんの発生状況	掲載
4月28日	感染症に気をつけよう(5月号)	掲載
4月28日	ウズベキスタンのこどもの定期予防接種について	掲載

【感染症・疫学情報課】